慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
Title	金融に及ぼす大戦乱の影響(上)
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.4 (1915. 4) ,p.450(86)- 463(99)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150401-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

て農場内には民の耕地は スれず て農場 n 又自己の ける勞 平均 を 標準」として立論せず又農 他より勞 積な 及か其る ででは、一大学のでは、一大学をできません。

金融に及ぼす大戦亂の

0)

大家として知られたるサヤ

ルス、エ、コナ

事質の配事に付ては罰者は其の考にて罰まれんことを望 年十一月に發表せられたるものなれば、本文中に於け れ即ち左に其の大要を紹介する所以なり。 經濟界にとりても亦愛考に賢すべき點少なしとせず。 n 0 上に及ぼす影響には 此の事は多年外國資本に依賴し来りたる殺國の 付き詳細なる研究の結果を發表せら 於ける大戰争が將來投資資本の供給 似しとせず。之

道及び器械生産が經濟上に於ける重要なる要素影響は吾人の知る限りに於て、或は、貯蓄、鐵影響は吾人の知る限りに於て、或は、貯蓄、鐵 或は、貯蓄、鐵

「ロムパ を有するもの殆んどなきに至れり、 現今の經濟界に 道の建設及新工 機關の發達比較的幼稚なり 氏の如きは既に千八百七十三年當時尚近世金融 本缺乏の爲めに生産の制限せらるゝ する資金は容易に之を求むることを得るが故に の缺乏に苦しむが如きことあるなし。 りては民間の貯蓄は絶えず此の機關を通じて鐵 ・増加したる結果、今日吾人は苟も 又は其投資方向を變更したる場合には果し 世界に於ける富の蓄積が近代 金融機關の作用圓滑に行はる、現時にあ ード街」に於て此の事質に論及したり。 る結果を生するや、 資金の源泉たる 事業にして起す可きものあらば之に要 以後に於ける最も 業に投せらるへの常に あ りては昔時に於けるが し時代に於 重大なるも に至り著るし が如き思想 のなる 放に若し 7 Ÿ 會に利益 して資本 ~如~資 オッ

> 三年の恐慌を惹起したる主たる原因の する投資を中止したる一事が、 來すべきや之を推知するに難からさるなり。 如何に資金の缺乏が重大なる結果を 歐州資本家が單に合衆國に對 かの千八百九十 たり

柳る利子は、 氏は合衆國に於ける莫大なる外國資本の輸入の 債を外國に負ふ 影響に付て論じて曰く 相殺せられて貿易上に於ける負擔として現はる くことなきを以て、 露國の有名なる經濟學者、 鐵道及び工業會社が歐州資本家に對して仕 新たに輸入する外國資本 か正確なる數字を知ること 今日米國が果して幾何の負 「合衆國に於ける自治側 ラフアロウイツチ によりて

るか。 朝事變に際して果して如何なる影響を生じな如斯米國が多大の外國資本を輸入せる結果、 る各種有價證券の 職亂勃發の一週間前 して果して如何なる影響を生じた 相場が より 紐育株式取引所

基だしく輸出現送點以上に騰貴せるは之れ の増加 17 其 w を回收せんと努めたる結果に外ならず。 か 至り 資 1, の影響は尚弦に止まらず、 證 U 「りたる結果たるや論を俟たざるなりo、本家が今や米國に對する債權を取り立つる ż. 祭 界の風雲急なるを見て其の所 なさ 遂に 0 各銀行が其の所有金貨を提供 17 七月三十一日午前に至 w 部を同 Z. 至り 組織せる 國市場に賣り放ちて以て資金 之れ主とし 如き、及び 金貨に對する需用 5 取引所 有 て歐州資本家 為替相場か でせる米國 してゴ 而し 閉鎖の 皆外 T 有

等の借入金を償還する 軍備を主として 日に 借入金により して此の数十億の づる 主さして其所有現金及び銀行よりの一至るまで各変戰國は其必要とする多額 壓迫を加 VC 至 ふる 工支辨し來りたるが、後日 其所有現金及び銀行よりの るに至る 移め 新軍事公債 に長期の公債を發行 有價證券 後日是

> さんい 吾人は先づ本論に入るに 先ち所論の大綱を示

- るものとせば、此れに要する(一)歐州に於ける大戰爭が を下らざる 可し。 で要する費用で概争が約一 はか H 五十億弗一間繼續す
- 始末のために要する費用の高は、(二)總ての変戰國が戰爭及び戰 が毎年投資の為めに蓄積する貯蓄 lo 戰 凡ての の敷倍 文明國 71 b 選 る跡 す
- とし も昇騰すべし。 らるゝ此等の資金に對する莫大なる需用の結果(三)經濟的利益を生することなくして消費せ 7 有價證券に對する利子歩合は以前より

る能はさる可しの 為め (四)か て募集せらるしも に資金を得んとするものは政府よりも遙、募集せらるくものなれば、其の他の目的四)かくる莫大なる軍費は全く政府公債に 率の利子を仕拂ふ に非さ ば 其目的を達 す D 0

皆之に吸收せられ、 は極めて困難となる 為めに米國 に賣却せらる て鐵道及び工 し、其間に 其間に金融市 に於て毎年投資せらる 0 一業會社 ゝもの非常の多額に上 に至る に至る可しo 新企業の爲めに の有價證券に 場は絶えず攪亂せらるを以 には數年の長年月 办 可 の手 して米國 うき新資本は 5 之れが以市場 を要す に適宜

と欲せば、 のみならず して、今後敷ケ年の間に新たに資本を求(土)故に若し米國に於ける鐵道及び工業 ふに 須らく其有價證券の利子を高く 足ることを投資家に示さざる又會社の收益が利子及び配當 べかを する め會 ん温

は全く 若し歐州 及工 軍 業上に使用 戦争が一ケ年繼續する の爲め に費消 せらる可き百五 (必ずしも 80 土十億弗の資 8 43 ば

> 費と 重犬なる影響を與 は 云はざ 職後數年間は必ず投資々 ኢ るを発かれさる 3 きを以て、 本の供給 可 の戦 上には

算したりの以 せずっ に参加 算したり。但し白耳義の支出額は此の中に包含られたる財産及び其他の爲めに約二百萬弗を加 赴かさる貧窮者 る大戦亂ある 數年前巴里 するものさし 以上の 云へば四千九百九十五萬弗)とものと假定し其費用を一日約五 大學のリシェ の為めに 額は伊 て算出せられ、 六百 太利及び ー教授は全欧州 + い羅馬尼が 且つ職場に 破壊せ が戦争 に亘 Ŧ

の専問家 るも 此 に反して中立の態 のリシ のに 問家 の計 の白耳義及び日本が新たに戰爭 非さるが如 1 に伴ひ 教授の計算は甚だしく 算等によりて比較観察をなすに 虚度を採る 起れる諸 Ļ 蓋し伊太利は此の豫期 21 至り の事件及 大に を難 火した C 其他

金融に及ぼす大戦側の影響

するわり 図 の支管 田を要するに ~~.4 又は全部 つ伊 太利、 5 員を行 しが放なり 瑞酉、羅馬尼 ひた る かず 72 0 8

士を維 の費用 は二卵五 り云ふ。 以て甚しく過少に失するものとな は獨 ける戰爭の實例より推 て新 の大略を知るを得たるが 73 で弾薬其他ので することを得べ にし を一日 持するに一日四百五十萬那に て吾人 心の軍需品に要した百五十萬那に 弗五 lo 要する上 獨逸政府が九日が放に事の真想が とすれば三百 質際支出 支出可 て事足 は 合 にて計 萬人 月 末 る を配 れ於

を下らさる可し。

の失費が も少なく 佛國が戰爭の始め六十 均支出は七百萬那なり。 然らば佛國 億二千萬弗な 且 (其領土内於て損害を蒙むり且つ其兵力も比較的少なきが は 如 と云 b H 8 しと云ふ 佛國の人口は に於 7 て質際 ふる 即ち たりと跳びより によれど 日 支 の平 世

しつうあるを以て、今日に於ては其の經費が右に遂せり。九月十一日英國政府の發表したる處に遂せり。九月十一日英國政府の發表したる處以後三十五日間に政府の支出したる軍事費の額以後三十五日間に政府の支出したる軍事費の額以後三十五日間に政府の支出したる軍事費の額以後三十五日間に政府の支出したる軍事費の額上らさりしものと見るべし、されど其後印度、本國に於ける大藏證券の發行高は約六千萬磅上のうるあるを以て、今日に於ては其の經費が有地奈陀及び其他の殖民地軍隊が漸次歐州に到着地奈陀及び其他の殖民地軍隊が漸次歐州に到着地奈陀及び其他の殖民地軍隊が漸次歐州に到着地奈陀及び其他の殖民地軍隊がある。

なる可し。のとせば一日の經費は平均五百萬弗に近きもののとせば一日の經費は平均五百萬弗に近きもの名證券の發行高の全部を既に支出し盡したるもの額以上に上り居るは明かなり。即ちかの大藏

進だ乏し。勿g 露國の戰時 きが故に總 さる 17. 那となすは、 調査材料なしと雖も、 計する 費しつく 此度の 可し。 少額な より 推 日の計算以後に於 して、 勿論兵士 d) 尚此の外に白耳義か一日二百萬弗を、甚たしく正鵠を失したるものに非 かる 歐州大戰爭の る んなべし。これがでは、 べしと跳 中立 るを以て、 、軍費の支出高を一日約五百萬雖も、其の軍備の他國に對するべし。墺土利に付ては亦同じく 一人宛の戦 獨逸の戰費より B 若し吾人が 3 英の兵士 動員費を H Ů ける英國 に要する費用は は之を知る 費は獨逸に の敷極め 一日約五百萬 以上凡てを 政府 少なきこ せさる のの て参 比材

に達するを見るべし。
は一ケ年に於ける戰費は實に百四十六億の巨額
減りたる額と云ふを得べし。此の割合を以てせ
総計費用を四千萬弗となすは、蓋し控へ目に見

として なり。 産の停 を償 ける諸般の設備の破壞せらるゝより生する損 の額は未だ以て、戰爭の爲めに、工 大戦

の一日の

職費

として

計算し たり 六日 是を以て見れば、 ふに足らずとなすも必ずしも不當に非さる 、(即ち 於ける 知らる D) iţ 國經濟學協會に於ける討 の現に生存せる佛國經濟學者中の泰斗 器械、鐡道其他産業及び交通上に メポー たる 職費の總額を十二億弗なりと計算 * 年百四十 J. ル・ルロワ・ボ 7) 3 0) ŋ 四億弗なり 3 授の計算は たる五、教授が、 議 y 場に於ける **.**)。同しく して一 氏は十 干萬 の額 害於 生

15 77 3 7 以 3 7 C 8 如 騰 鐵道の總價 九 此 戦費の總額が Ŀ 分 3 Ø 九〇六年六月三十日四の額は合衆國に対 < 凡 配 8 可ら資本 T 機關の擾亂 の諸 想 戰爭 4 額よりも更に大なる 17 の破壌に非ず 第 百 Ó の等 Ħ. より V 日於け 十億 3 8 しく 0 lζ しる鐵道建設(歪る 弗 * ずる 律 が以上に上 かず BOO 間 政 ----17 府 接の損害を除 生産 B 布 が直 なりの 詜 0) 3 0 £ 始め な 機績す せら M 接 の損害 6 き事 支出 肠

る Ŀ b ð 以上は一ケ のなれど 亦 17 繼續 3 を行 して 非さる する S 1 心結する もこは なりの 居り 2 年に を確信し 耳 一る戦争費 蓋し戦争が 且つ今後之に 吾 人が 0 今日各変戰 て、 職争が Ø 假り 總額 3 接支出 する 國 豫 42 必 E 一ヶ年を ず豫 かず 大規模 被 想し の濟 服 ケ 8 年た

> 壊せられ 変戦 見ざ 平和 部分 ば戦争が 0 高 國 する 3 0 13 は カゴ 尚百億弗 公債及租 までに たる鐵道其 から 態 假り 17 ず。 立 0 は敷ケ月 に大七ヶ月 5 引 稅 を下ることな 且 3 により民間 他 2 3 上げ の生 及び解 0 爭 T 時日を要す可 に終るとする の爲めに かる より 續す 隊 が再 E 可 赕 FFI ~ 收する JĿ É び Š 舊態 舊態に立ては破 Q j 8 終り のと 資各 \$

毎年投資せらるる資本の 額

の悪礎と らる て先 さる 與か + IÇ > 億 L > パグ吾人 發行 額 可 る巨 ~ なす b Š 21 きかを知らんとするには、巨額の戰費が金融市場に加 Ö せらる 對して ず。 戰 額 に付 の出 費が Ø 戦費が 一後點と τ > L 如何なる割 は論多此 投資々本 て此 光貯蓄額 少考 なす可 0 券に 版す以 とし 合 ではあたるやを知 30 ~ 7 ぜら て毎年貯蓄せ 如 क्र ह 0 先 何 餘地 る は う なる 地の存 る 此 郁年 Ø 百

本れ 間 より ども Ó 祭 ----0 めに 會は 部として考ふ 享 献 朋 樂物 是等 せる がか を得ん は有 ずる 道 價證券に 0) ること 改良資 がために使用する貯蓄等あ 農民が 普通战下 を得 金と 0 さる 穀物倉 して 办 なり せら 蛮 洪 庫 0 Ó る Ó 美術 增益例 / 資

他 7 る の購入を節 7 0 B 勿論各交戰國にありては b 多多 回に 建設 0 Ŀ の 和 補 增 充 加 物 の新資本の 於ては する して す 0) 改 待す 3 良修繕 爲 17 以つて政府 3 め 戰 至 に資本 爭 3 給の の爲め は を差 はさ 自 し整 0) 然 公債に應募せんと 愛國心の發動より 心の勢なれ 需用 加に に破壊せられた b ^, 對し 增 • Ç 加 或は贅澤品 T す ሯ も亦余 るを以 B 3 古

7 る つて吾 行 せらる は 1 事ら て論 百百耳 劣に 義に Ŧ 於 世

> 界に於け ○三年に対数行總 終る 計に 價證 云ふ 億九千六百萬 億弗に達し ける 百九十三年 つれ in 0 十ケ 弈 劵 1の総額 はあると て近年著 に投 均 は 年 3 は 日萬那となり、松は十二億五円 に終る十 せらる 間に 有 干 たること殆 年 價證 八百 は平 3 約 祭 九四 > 資本の の新發行 均四 十六年以前に 1 + < 千萬弗 年間 んどな 3 17 弗加 於 丽 高 τ 51 15, し し は器 總額 ては 於 か 17 13 最近數ケ 千九百 倍 5 b V 械生產 ES P しが あり 上 は 3 <u>ئ</u>ر ٥ に昇 **---**では全世でなる。此の統治を一産の發達 か年の平 十三年に、千九百 • ケ 年二十 n Z

對する 换 かっ 以 3 E 垣 が比 J. 一發行高 加 用 一較的 の發行 增加 Mi して千八百○六年以後に於簽行高を見るには之を控除 減少 を示 は 借 したる すもの 換し 12 とし る 實 孙 は近年、 て特に r 含 U B て此 目な本 せざ のな 31 3 n 0

するものなり。

左に千 八百九十 六年 より 九百十三年に 至る 間に於て毎年發表せられたる有價證券の發行高 を表示す。

有 價 證

五、一二六、〇一四、〇〇〇 二、九六一、三七八、〇〇〇四、七四三、二〇〇、〇〇〇 五、一〇一、〇〇〇、〇〇〇 三、七五六、九〇〇、〇〇〇 三、七五六、九〇〇、〇〇〇 二、〇三四、七六六、〇〇〇 二、一七五、八二三、〇〇〇 二、二八九、六四二、〇〇〇 三、五九七、四八九、〇〇〇 三、五九七、四八九、〇〇〇 三、五九七、四八九、〇〇〇 三、七八五、一三八、〇〇〇 三、二二七、三五九、〇〇〇明 五二、一七三、〇〇〇

三二三、四八七、〇〇〇 九九一、五二六、〇〇〇 四三、九〇八、〇〇〇 六三、五四一、〇〇〇 六八七、七〇〇、〇〇〇 六八七、七〇〇、〇〇〇 一四三、一〇〇、〇〇〇 一四三、一〇〇、〇〇〇 - 六八七、七二九、〇〇〇 三五三、四四五、〇〇〇 四六五、四五一、〇〇〇 一三二、一八二、〇〇〇 三一六、五三〇、〇〇〇 一二〇、八七三、〇〇〇 髙

一、七一九、九九一、〇〇〇 一、七一八、二三五、〇〇〇 二、二八九、六四二、〇〇〇 一、九一七、九一六、〇〇〇 一、九五七、五六八、〇〇〇 二、四三一、六九三、〇〇〇一、八四六、五一九、〇〇〇 七六一、九〇 -1: O 00

定を以て之を行 を得る 自治剛體が事業を擴張し、 貯蓄額 可き資本は せば各自 增 至る可しo を以て此 を人対 加 の途なきに至る r は全部 以てす する IC の收入に 0 全く金融 隨 悉へ政府 ふ能はず、 つて鐵道のなる融市場に 時は、 は其他の目的 12 3 よる 可 場に之を 10 公債の 約四 叉は公 其他諸 0 建設改良は 欧洲戦 ケ 0) 12 年 益事 紡績 求 51 め 戰爭 所の 51 むるを得さ めに投せら に吸收せら に亘る新資 會 業を起さ 資本勘 配 資金 及び 年す 0 3

る

17

る る

んど

本

0 /

の統計 過少に失する の議論なり 勿論斯 於て然り は投資 13 千 とす會社 0 0 ことに 百十 米國に B 如きは事實わり せらる可き貯蓄の額 のなる ---一年には其高三十六億二千八に於ける會社の資本金及社債社税に關して發表せれらたるなるべし、殊に此の事は米國 白耳義に刊 行 ~ からざ せらる としては或は く前述 る

朝に上れり。 是等、 上れり。 是等、 一(三百五十八 大なる制限を附せざる税局長の報告せる高は掲げたるものに匹敵す せられた P 上會 增加 以上の數字は 耳義の統計に於て全世界の資本の增加額として 國に於け b のを包含せるが の甚だ多 は何 内質は 15. たるものに匹敵するが でき人的で 50 、株式を所 る資本の 等實際 るものあ 少數私 Ų を採 合衆國 の富 即ち合衆國に せざる いるが故に 故に、 れる 人の組合なるに拘はらず便宜 増加火にても、 有すること の高を一見すれば恰も米國 有することを目的として設立ち合衆國に於ける凡ての會社組織の國に於ける凡ての會社組織の國に於ける凡ての會社組織の。されどなればがあるが如し。されど此の國際するが如し。されど此の國際するが如し。されど此の國際 を増加 じ會社 重きを置ける少数 8 七百 の甚 したる • 〇六萬七千百九十にして、翌千九百 と称する だ多し、 此等 もの 旣に 0 8 會 自社の株式 前述の に非ざる 人々にしてか の内に

(四五九)

金融に及ぼす大戦鼠の

影響

第四號

自 より 由 0) 21 21 T 行 は立 さる 3 步 らる > なり る會 資 、本は決して賣買の せらる 1 性 質 0

買を公認 要なり。 二月 百五 たる を らる の夏買に 15 b 15 知ることを得 對し T IX 果し 市 の多 報 引 > 五九 (億二十五億七百萬弗(國勢調査局最近調) せらる 資本の 7 告 て然 はられ 式を電 0 日)。之に 億七千五百萬那なりき、(千九百十四年 附せらる M せられ 如 してこは紐育株式取引所に於て正式何なる割合にあたるやを知ること肝 何 5 合氣 13 > 算會 72 VC たる米國 ~ る有價證 割合に 人· を知ら > 口 有 い 吾人は 三萬 紐育株式取引所 價證券を見れば其 | 吾人は米園に於て二般||図立及州立銀行並び信託||でる鐵道有價證券の一部 あ 會 W 0 7 以上 一券の總額面 たるや で欲 の有 办多 の都市の發行し • 世 — 價 證券 間價格は二個人の大體 局 於自由 0 長 縋 17 額

> 百れたる額的に取 七十四 るもの る株券 は千 Ħ. なり せら 四千 0 17 Ħ 債券の總額 十二年 O 八 歪 四百 -|-あ 3 那 17 億 九百六十二人國稅局長 弗を得 17 價 對し 約 べし。 0 五分の二に一四億三千七 に申 一告せら 而 ኟ して

年がて を同 5 る 4t よりて左右せらる 百 > んどするに際し考ふ可きことは、 21 せる 億弗 恐 加引 假 3 式又は配債を發行する會 年 に於ける は 6 17 0 É 有價證 に是等の嚴密なる意味に於て 會社 合にて増加する る か 約由 > の一般金融市場に於け 十六行 有價證券が と同 券の 投資 億は 一なる能はさるは事質 くこと比較的 弗んと 3 如 1 本の増 3 選すの 8 凡 ての 0) Ø 8 る計算となっ 社 加 cせば合衆國に の株式及び債券 味に於て取引の 少なき人 の資本 Ø の る利子歩合 自 勿論 由 0) 17 を算 増加は N 上 の

るものなり。
るゝ大會社發行の新有價證券の高と略ば合致する」大會社發行の新有價證券の高と略ば合致す

旣に吾人 動は 及 にて貯蓄 應募せ せらる は にて貯蓄をより、 して平素各自に通貨を貯蔵し、 で 21 是等 彼等 の事は 通常の場合に 於ける種々 0 資本を を驅り 祉 か 投資せ くやを研究するには資金の需給、 債に 道具及び に際 債に じる をなせるも 前に指摘したるが如 具及び店舗の改良擴張の為めに費るに至らしむるは勿論、更に進んりて此の種の貯蓄を以て政府公債際しては各國に於ける愛國心の發 败 投心らるし の事 收せら 53 あり 公債 下情を観 ては鐵道其他工業會社 のあ の應募又は租 b 察せ P のに ざる可 く佛蘭西 叉は 人及び ざれ 7 て其の幾割 ・是等の資 其他の方 業上 かっ 8 小 3 英國 商人 に使 ずの 兩方 0

額に上る可し。せらる可き資金として市場に出づる額極めて多之を以て見れば是等諸種の方面より新たに投資として政府に納付する額蓋し鮮少ならざる可し

新發行の公債に投せ¹ 於て、 に投資 必要ある に存 の事 を發行する場合に於ては國 産業の必然的發達に 更に他 たるや する 然り せらるこ A 場合 時 方に於 П 3 J. 會 の増加より生ずる需用 13 17 脏 特に の株式が すの 直接生 8 て是等 の多額に 戦争の 作ふ為 5 需 7: 用增加 の投資 設立當初 3 ति 惨禍を蒙らざ ~ 利 場に 價以外 12 しと め 潤 る可 に新 0 N 化於 爲め工 本の全部 の此 i 重け 0 增加 又断定する能 21 E る 所 17 有者の が等の如 一場擴張 间 箏 3 有 者の手 の證券 價證券 が悉く 少 かる 方 8 17 0

ある各変戰國が爭ひて其の資金を全世界に於け現今戰場に於て數十億の富を硝煙と化しつゝ

(四六1) 雑 鉄 金融に及ぼす大戦鼠の影響

國政府 を必要とする鐵 小部分 工 つが 蓋し是等の を相手として競争せざる 故 を得 13 T b N 3 Ô 會社 道會社が此 カジ 爲 めに 得る は只供給せらる は Þ 般金融 の間に立 興味ある間題なる かっ Πſ からざる 可き資金 ちて果し 場に 多額 た於て各 0 0 T ~

白耳義及 するに し変戦 なる 中稲し 至らば生産 結 此と關聯して吾 果歐 P 亦 が洲大部 方 C 大 21 北部 の織 に増加すべしと雖も、 従事せる人 の同復に重大なる刺戟を與へ且 質是なり。 か 吾 人 其他 H 迺 於 0 一其他敵國 の主たる工業を舊態 け 看 が再び産 3 過す 岩戰爭 投資 ~ 0 K からざるは 蹂躙に 業に 他方に於ては 本の にして早 從事 蓄積 委せ 3 17 する が戦 9

7

現狀の λ ペ

自己所 530 少なく 政府 たるや たる 要 す 慕 0 、其の詳 3 有 者 果なりの Ž 資金を得 何なる 0 は帝 其の U 他の有價證券を擔保とし 51 國銀 : 細を知るを得ずと雖も多分大多數。る方法、形式によりて拂込をなし 华 3 b 金を 金は直 たるもの 行 は既に排込を終りたりと傳へ C 3 他 浆 特 5 めさるを得さるに至り 歪 なる可 21 n 90 0 貸付 費せら これ Lo 銀 て以て挑 一の公債を 行 に就き

此此 法を以てする時 是れ迄英國 に分配 は 7)? まる かる手段方法は政府が資金を求むる上 3 可 せら 有效 3 隨つて は公債 ~ことなくして と見ざる はる は終極の投資家の しと跳 大殿省證 る方 B 法によ 金融 時中間 避労を發行 丽 場に對す 8 者の手 て排 間 此 に適方 の方

企

この合のれ 種つ銀り紙政逸債にる甚其係 で財になばさの英行 の幣府及もスよーへ 政非る必れ制國が即立の 短の場 Ŧī. 叉百 の證非加 萬 13 那 b F し 6 3 7 ゑざ にの英の は開戦後直ちにながりるが如き際はなる行動は危気を認いない。 3 8 τ 後げが英の直た一國へ る部に如 額 形要賢急すを超 に式す明のる超 \$ 51 3 分於 た行らのるのれ如 或 ・中の共て Q る且央なのも獨公手たく

> 代 IJ 論 力 0) jV 1 究 配論 特

島

次

論 氏分配論と價値論との關 坻 氏分配論と交換論との關係 所得は所謂社會階級所得なり 係

第四節 第三節 第二節 地代と農業の進步改良地代と價格 地代の 獨占的地代 發生と其高低 一名絕對的地代

12 3

2

17

3

る

之如は

をるな場も

第 ---

飾

意義

M

氏地代論の叙述

のを形要

分配論特に地代論の研究